

運動の楽しさに触れ、進んで体力の向上に取り組もうとする児童の育成

～「わかる」を意識したゲーム・ボール運動領域の指導を通して～

発表者 高原町立広原小学校 永田 勝己

司会・進行 高原町立狭野小学校 米村 彰

発 言 者	内 容
	<p>○キックベースにおいて女子がキャッチすれば1点というルール在意図は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 女子がボール運動に対して消極的だった。キャッチで-1点とすれば、男子も女子に声をかけるようになった。 <p>○ソフトバレーが4対4になった理由は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級の人数的に都合が良かった。 <p>○ソフトバレーのキャッチのタイミングや回数に制限があったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に制限はない。その方が児童が安心してラリーをしていた。 <p>○場づくりや感覚づくりの運動をしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャッチボールなど投げる練習を工夫した。高さを変え、落下地点を予測する練習をした。また、遠くに蹴る練習をした。 <p>○友達との関わりを高めるために言語活動の仕方を工夫したか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを用いて、それを基に話し合いができるようにした。 ・ 作戦ボードや磁石を使ってイメージを共有させた。 <p>○質問する力をつける訓練をしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何が分からないか分かるように、児童にチャート図を配って説明した。